

学長からのメッセージ

令和4年度卒業生の皆さん、大学院修士課程修了者の皆さん、卒業そして修了誠におめでとう御座います。2年間も続くコロナ禍の中で、想定を超えた困難を乗り越え今日の卒業式を迎えられたことに最大の敬意を表します。また、今まで卒業生、修了生を見守り、支え続けてこられたご家族の皆様のご苦勞もいかばかりかと推察申し上げますとともに、心よりお礼とお慶びを申し上げます。全ての教職員と在学生を代表してお祝いの言葉を申し上げます。

さて、4年前、多くの皆さんが長崎大学に入学してきた頃を思い起こしてください。私は皆さんに国際人になって欲しいと思い、また大学でのカルチャーショックを与えるために、英語で式辞を述べました。

皆さんが、見たはずの大学案内の表紙には、『文化の港から、今、世界へ飛び立とう』のローガンがありました。

また、私も学長に就任して間もなかったので、皆さんと同じように希望に満ち、普通の暮らしができるものと思っていました。

しかし、2020年の新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、事態は激変しました。

密集、密接、密閉といういわゆる三密を避けるため、授業はオンラインになり、スポーツや文化活動など多くのクラブ活動が制限され、飲み会やカラオケなども禁止され、極めて窮屈な生活を余儀なくされる事態となり、さまざまな場所でクラスターが発生し、医療崩壊の危機も叫ばれるようになりました。

皆さんはこの困難な就学状況の中で創意工夫を重ねながら勉学を続け、よく頑張ってきました。これからどのような未来が待っているか、誰にもわかりません。世界は大きく変動しています。しかし、皆さんはこれまで頑張ったことに誇りを持ち、自分のため、人のため、社会のために活躍して欲しいと願っています。平和な世界、持続可能な地球が永続するように、互いに頑張りましょう。

最後に、長崎大学で学んでくれて、ありがとう。そして、卒業おめでとう。

MESSAGE FROM THE PRESIDENT



長崎大学長
河野 茂

表紙のはなし

龍踊

長崎くんちで奉納される「龍踊り」は、中国での雨乞い神事に始まったものといわれています。太陽や月を表す玉を龍が追うことで、恵みの雨をもたらす、五穀豊穡、豊かな実りが叶うとされています。

今、世界的パンデミックの脅威に私たちは直面しています。ただ恐れ、耐えるだけでなく、皆で知恵を出し、願い、協力するからこそ長い道を歩いていけるはずです。自然と共生し、人と人のつながりを絶やさないことの伝承が大切なことかもしれません。

写真:五嶋町龍踊より白龍

CHODAI DOSOとは

CHODAI DOSOとは長崎大学同窓の略で、長崎大学卒の看板を背負って社会に出る卒業生向けに、在学時代の思い出と、長崎大学の誇りを詰め込んだ冊子です。大学への愛着を感じてもらうと共に、大学との繋がりを保つツールとしてご活用ください。



国立大学法人
長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

CHODAI DOSO

NAGASAKI UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION



国立大学法人
長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

2022

社会に出てからも、 大学の時にできた友達や、 お世話になった先生たちとの交流を忘れずに 大学時代の思い出を大切にしたい。

Profile

1993年12月7日生まれ。
長崎県新上五島町出身。
長崎大学 環境科学部を卒業後、2016年にフジテレビへ入社。現在は、「めざましテレビ」のエンタメキャスター（月・木曜）や「Live News days」（日）にキャスターとして出演。「ワイドナショー」「日曜報道 THE PRIME」「Live News イット!」などのナレーションも担当している。

©フジテレビ

永尾亜子アナウンサー
スペシャルインタビュー



フジテレビ
アナウンサー
永尾亜子さん

環境科学部（2016年卒）

NAGAO ako

きっと誰でも、 特別なことや 特別な経験がある

永田／永尾さんはどのような学生時代を送っていましたか？

永尾／正直、私はすごく特別なことはしてなくて、毎日授業を受けて、サークルに行って、友達と遊んだり、バイトをしたり...ごく普通の大学生活を送っていました。ただ行動力はあったと思います。大学3年生の時、アナウンサーになろうと決めてから、福岡のアナウンススクールへ通ったり、町内や市内、九州内のイベントの司会をしたり、思い立ったらすぐ行動していました。

永田／3年生の時にアナウンサーになろうと思ったとのことですが、きっかけはありましたか？

永尾／子どもの時から、人前で話しをすることが好きだったので高校生まで、放送部に所属して

いました。ただ、高校生の時にアナウンスの大会で賞をいただき、自分の中で一区切りついたこともあって、大学では他の事をやるつもりでアカペラサークルに入り、アナウンス以外の事をしていました。でも、就職活動を始めて、自分は何になりたいのかを考えていたとき、テレビを見ている自分がアナウンサーの姿を目で追っていることに気づいて、「やっぱりアナウンサーになりたい」と思ったんです。

永田／永尾さんは、「特別なことはしていない」と言われましたが、ご自身が思うフジテレビのアナウンサー試験を通過できたポイントがありますか？

永尾／人と違う所を見つけて、そのどういうところが魅力なのかしっかり自分の中で分析してアピールできたことかなと思っています。きっと誰でも、他の人から見ると特別なことや、特別な経験をしていると思います。でも、自分ではそのことに気が付いていないことが多いのかもしれません。例えば、私の場合、高校卒業までの17年間はずっと上五島で生活していたことや、長崎大学出身のフジテレビアナウンサーがいなかったのが、長崎大学への入学動機や長崎大学での学生生活さえ、特別なこととしてアピール出来ました。

自分のやったこと に対しては自信を持つ

田中／私は、部活の大会で不安でいっぱいになったことや、緊張することが多かったのですが、永

誰しも自分では気づいていない
魅力があるのかもしれないね。
僕も探してみようと思います！

環境科学部1年
永田拓巳
NAGATA Takumi

尾さんはそのような場面でも自信がありましたか？

永尾／自信家というわけではないですけど、自分がやったことに対しては自信を持てようと思っていました。自信を持っていないのは、努力不足な面や、もう少し出来たのになんていう思いがあるからだと思うんです。勿論、たくさん頑張っても自信が持てない人もいると思うけれど、そんな風に思う必要はないと考えていて、自分がやったことというのは、事実として残るわけですから、結果的にダメだったとしても「いや、自分はここまでできた、頑張ったんだから」と、自分がやったことに対しては自信を持つようにしています。

田中／テレビの中の永尾さんは堂々としてかっこいい印象があるのですが、そのような思いをお持ちだったからなんですね。

永尾／実際には不安な中で仕事をすることもありますし、本当にこれでよかったのかなと思うこともあります。でも、不安を少しでも減らせるように日頃の情報収集や準備・トレーニングは怠らない

永尾さんの行動力に憧れます。
私もいろいろな事に挑戦していきたいです！



環境科学部1年
田中藍子
TANAKA Aiko

ようにしています。

永田／永尾さんがアナウンサーとして心がけていることはありますか？

永尾／たくさんありますね。仕事にもよりますが、「出過ぎないこと」ですね。アナウンサーはあくまで相手を引き立てるという役割なので、いかに視聴者の方に分かりやすく伝えるか、インタビューの仕事ではおもしろさを引き出せるかを心がけています。

言い換えれば視聴者の気持ちを考えることですね。ニュースを読んでいて失敗するのは、間違えないようにとか、自分が上手に思われたいとか、自分への気持ちがあるからだと思うんです。そうではなく、テレビの向こうにいる人たちのことを考えて、いかにして伝えるかを心掛けていけば、お

のずと伝わる読み方が出来るし、より良いインタビューができるのかなと思います。

大学時代の人間関係を大切にしたい

田中／最後に、卒業生へのメッセージをお願いします。

永尾／社会に出ると責任が伴って、自分一人の問題に収まらないこともあります。つらいことや悩むことも必ずあると思いますが、そういうときも前向きに自分らしく行動できたら、自然とチャンスが

訪れるものです。ですから、いつでも自分を忘れずにいて欲しいと思います。あとは、困った時や大変な時は自分だけで考えずに周りの人に相談することがすごく力になると思うので、いつでも相談できる人間関係やコミュニティを持つことが大切なのではないかと思います。

社会に出てからも、大学の時にできた友達や、お世話になった先生たちとの交流を忘れずに大学時代の思い出を大切にしたいです。

永田／永尾さん、今日は貴重なお話ありがとうございました。

Who's Who Our University

長崎大学出身の先輩たち



下村 脩 SHIMOMURA Osamu

(1928～2018)

2008年ノーベル化学賞受賞

薬学部(旧:長崎医科大学附属薬学専門部)

※掲載五十音順

企業TOP

大日本コンサルタント

代表取締役社長

新井伸博

工学部



上原成商事

代表取締役社長

上原晋作

経済学部



西部ガスホールディングス

代表取締役
副社長執行役員

太田 良

経済学部



カネミツ

代表取締役社長

金光俊明

工学部



双日九州

代表取締役社長

香田篤志

経済学部



ヴィレッジヴァンガード コーポレーション

代表取締役社長

白川篤典

経済学部



福岡中央銀行

代表取締役頭取

古村至朗

経済学部



ひびきエル・エヌ・ジー

代表取締役社長

村瀬廣記

工学部



活躍中の先輩たち

秋野公造

医学部

参議院議員

草場道輝

水産学部

『週刊少年サンデー』で連載中の長大水産学部を舞台にした漫画『第九の波濤』の作者

国光あやの

医学部

衆議院議員

中村明俊

教育学部

『聖水』で第124回芥川賞を受賞。ペンネームは青来有一

福地茂雄

経済学部

アサヒビール社長・会長、日本放送協会(NHK)会長などを歴任

藤原謙次

経済学部

ローソン、ファンケル、カカオコム、サンドラッグなどにおいて重要ポストを歴任

渡辺 航

教育学部

『週刊少年チャンピオン』で連載中の漫画『弱虫ペダル』の作者

FACULTY OF EDUCATION
HUMANITY AND SOCIAL SCIENCES

SATO Daiki



出会いと経験、 自分の目標を見つけた“4年間”

学生団体「COME」や「長崎ホームレスを支援する会」に所属し精力的に活動していた佐藤大樹さん。大学生活を振り返っていただきました。

永田／佐藤さんが多文化社会学部に入学しようと思ったきっかけは何ですか。

佐藤／しょうもない理由ですが、一年間留学生と寮で一緒に住めることが面白そうだなと思ったことがきっかけです。

永田／実際に入学してみてどうでしたか。

佐藤／留学生も含めそこでしか出会えない多くの友人に出会えて、入学してとてもよかったなと感じています。バックグラウンドの異なる人と仲良くなれたこと

学生団体「COME」での自己分析。



は大学4年間で振り返ってみて印象深い思い出として残っています。

永田／佐藤さんは、大学4年間の中で「COME」と「長崎ホームレスを支援する会」に所属し活動していたと伺いました。具体的にどのような活動をされていたのですか。

佐藤／「COME」は就職活動を意識した団体で、自己分析や企業訪問などによる業界・企業研究を。「長崎ホームレスを支援する会」では主に毎週木曜日、夜の弁当配りを行っていました。

永田／その活動を通してやってよかったと思うこともしくは得たものは何ですか。

佐藤／まず「COME」で活動してよかったなと思うことは、自分の目標を限りなく可視化できたことです。具体的に私には「社会問題に携わり、問題提起を行い発信したい」とそのような思いがありました。「COME」での様々な企業への訪問や研究をする中で、自分のしたいことを達成するためには新聞記者がふさわしいということに気づけ、目標が明確になりました。また「長崎ホームレスを支援する会」では、実際に困窮者の



「長崎ホームレスを支援する会」での弁当配りの準備。

生活を自分の目で見てどのように困っているのか、何を必要としているのかを知れたことは私の大きな財産となっています。「COME」と「長崎ホームレスを支援する会」での経験が新聞記者になりたいという強い動機となりました。

永田／新聞記者として、これからの目標などありますか。

佐藤／長崎県の人みんなに社会問題に関する自分の記事を届けたいです。長崎新聞と言ったら佐藤だよねと言われてもらえるようないい記事をこれから書いていきたいです。

永田／目標を持ち行動し続ける佐藤さんはカッコいいなと感じました。佐藤さんの記事を読む日を心待ちにしています！

FACULTY OF EDUCATION

MIYAGAWA Chie



私たち学生が当事者となって 若者人口流出問題を解決したい

学生団体「スマイリース」を結成し、「株式会社PAL FLAGS」の代表取締役として活躍している長崎大学教育学部4年生の宮川智慧さんに、会社や学生生活についてインタビューしました。

近藤／起業しようと思ったきっかけは何ですか？

宮川／教師を目指す日々の中で「もっと色々な経験をして自分の視野を広げたい、その経験を子どもたちの教育に活かせる先生になりたい」という思いがあり、学生団体の活動を始めたのが最初のきっかけです。活動しているうちに、大学を卒業してすぐに先生になるよりは、どこか企業に就職して、経験をつもうという考えが芽生えました。しかし、就活中に、元々繋がりがあった企業さんから「今、宮川さん達がやっていることは立派な事業だから会社としてやっていけるんじゃないの?」というお声を頂き、確かに、学生団体という組織自体とそこから生まれた活動を継続的にやっていくことを考えたら、会社の形にする方が、課題解決型のビジネスとしては最適なのではないかと考え、起業することを決めました。

五島市の事業所様に向けて行った「会社PR動画制作セミナー」での一枚です。



近藤／学生団体「スマイリース」について教えてください。

宮川／長崎市は2018年、2019年の若者人口流出数がワースト1位であることを知り、何かできることがないだろうか、私たち学生が当事者となって若者人口流出問題を解決したいと考え、2020年4月に学生団体「スマイリース」を立ち上げました。活動内容としては、就活サポートや教育事業をしています。

近藤／「株式会社PAL FLAGS」はどのような活動をしていますか？

宮川／メインの事業は就職支援事業で就活マッチングサイトの運営です。学生団体の時は、実際に学生さんと企業さんが会えるリアルな場を作るというアナログな部分での取り組みだったのですが、それをデジタルな部分でもマッチングできるシステムがあったらいいので



就活マッチングサイト「ミツカル」は長崎創生プロジェクト事業として長崎市より認定を受けました。写真は授与式の際の長崎市長との一枚です。

はないかということで「ミツカル」というサイトを企画して開発を委託し、学生視点で私達が運営を行っています。事業をやっていくうちに企業さんから「学生が何に興味があるのか、学生が何を知りたいのかを掴みにくい」というお悩みを頂き、そのPR部分を私たちの方でお手伝いできないかということで広告PR事業も行っています。あとは、学生団体「スマイリース」の支援、ICT教育事業も行っています。長崎はIT系の企業が少なく、今後、若手のIT人材の育成と輩出が必要になってくるだろうということで、昨年6月にコミュニティスペースを設置し、そこで中高生の時からIT系、ICT系を学ぶ機会を提供しています。

Student Activities

活躍した学生たち

アカペラガールズバンド 「Jammy Boots」が 第10回A cappella spirits 「ギャルバン部門」で優勝!



Twitter



YouTube

アカペラサークル「はもねびあ」所属の「Jammy Boots」が第10回A cappella spirits「ギャルバン部門」全国大会に出場し、見事優勝を果たしました。

「Jammy Boots」は大学4年生6人組で構成されたガールズバンドで、2年生の9月に結成されました。アカペラに時折セリフを交える「ミュージカルソング」を中心に、観客とともに音楽を楽しむことをコンセプトとしています。(メンバーの学部は、教育学部2名、多文化社会学部1名、工学部1名、環境科学部1名、薬学部1名)

長崎大学サークル 「ながさき海援隊」が 長崎県環境保全 功労者として 表彰されました



長崎大学サークル「ながさき海援隊」が令和3年度長崎県環境保全功労者として、表彰されました。ながさき海援隊では、海岸清掃や、漂着ごみの調査を行うとともに、長崎市内の小学校を対象に海ごみに関する講座を実施しています。これらの活動が、地域の環境美化や環境保全活動の推進に貢献していると評価され、今回の表彰につながりました。

さらに、今回の受賞翌日、同サークルは対馬に向かい3泊4日の清掃活動を実施しました。

波佐見焼のシェアリングサービスの 提案でグランプリを受賞

11月14日に出島メッセ長崎で開催された、長崎学生ビジネスプランコンテストにおいて、長崎大学の学生グループ「Kigae(キガエ)」が38組の応募の中から、見事グランプリを受賞しました。同コンテストは、長崎県内の起業を目指す学生を対象に大学発ベンチャー起業の発掘、育成支援、チャレンジ精神の養成を目的として開催されています。「Kigae」は水産学部3年山羽香穂さんと経済学部3年渡久山みのりさん、2名のグループです。



難民問題をもっと知ってもらいたい。 長崎大学サークル「STARs」

世界で起きている国際社会問題、特に難民問題についてもっと知りたい、もっと考えたい、そしてみんなに知ってほしい。そんな想いで日々活動しているのが、「STARs」です。主に勉強会、情報発信、イベント運営を行っています。今年度のオープンキャンパスでは、「紙飛行機プロジェクト」という青や白の紙飛行機の翼などに東京オリンピック・パラリンピックの難民選手団へのメッセージを書き、SNSを通じて届ける企画を実施しました。今後の目標は「仲間の輪を広げること」。学内はもちろん、県内大学そして全国の学生団体と、より多くの繋がりを持ちたいと考えています。



Twitter



Instagram



Facebook

環境科学部4年の石神あすかさんが環境科学会2021年会 において最優秀発表賞を受賞



石神さんは、「少子高齢化を考慮した世帯形態別食品ロス量とライフサイクルCO2の推計」という演題で発表し、日本の家庭から排出される食品ロス量と、そのロスに由来するライフサイクルCO2排出量を、世帯主年齢の違いに着目して可視化することに成功しました。本研究は、食品ロスと環境問題の関係を、年代ごとの食生活の違いに注目して分析した非常に独創性の高い内容であり、昨今のSDGsのゴール12にも深く関連しています。今後は、より健康な食生活へのシフトと食品ロス・温暖化対策の両立の観点から、本学が目標に掲げるプラネタリーヘルス研究として発展していくことが期待されます。

「サークルK長崎大学」がイベントを実施 ～世界の子供たちが平和を祈念して描いたイラスト入りの灯籠船流し～

2021年10月18日、国際ボランティア団体キワニスから認証を受けた「サークルK長崎大学」が、平和公園のそばを流れる川で、灯籠船を流すイベントを実施しました。灯籠船には、世界の子供たちが平和を祈念して描いたイラストやメッセージが載せられました。これらは、長崎原爆資料館で、「サークルK長崎大学」の学生たちによって組み立てられ、約180個の灯籠船が完成。平和公園そばの川に運ばれ、学生たちの手で1時間かけて1つ1つ丁寧に流されました。イベント当日は天候にも恵まれ、徐々にあたりが暗くなっていく中、幻想的な光景が広がりました。



文教キャンパス総合体育館で 新型コロナワクチン 職域接種

2021.7.13

長崎大学では令和3年7月13日から新型コロナワクチンの職域接種が、文教キャンパス総合体育館にて実施されました。長崎大学の学生・教職員と、長崎大学周辺大学、県内企業などの接種希望者にワクチン接種（モデルナ社製ワクチン）が行われました。10月22日時点では学内接種率は73.8%（7月13日以降、他接種会場等で接種している者は含んでいない）となりました。



情報データ 2021.6.11 科学部棟が完成

令和2年度より、情報データ科学部棟の整備（旧教育学部本館の改修）が進められていましたが、6月11日に河野学長直筆の館銘板を上掲し完了しました。情報データ科学部棟には、学部長室（会議室）、教員室、研究室、リフレッシュスペース及びオープンラボが設置されています。リフレッシュスペースは、学生の休憩スペースとしての利用の他、教員や学生が歓談しながらの打ち合わせ・ミーティング等に利用することを想定しています。



下村脩博士の 2021.10.21 胸像除幕式を開催

薬学部では、2021年10月21日、薬学部玄関ホールにおいて下村脩博士の胸像除幕式を執り行いました。

下村脩博士は、薬学部の前身である長崎医科大学附属薬学専門部を1951年に卒業された先輩であり、長崎大学薬学部、名古屋大学薬学部を経て、アメリカで「オワンクラゲ」が光を発することを研究され、その「光る仕組み」を解明したことにより、2008年にノーベル化学賞を受賞されました。

その下村博士の功績を称え、後世に伝えるため、薬学部同窓生等から寄付を募り、博士の胸像を製作したものです。



情報データ 科学部設置 2020.4.1

情報データ科学部はデータ科学及び情報科学を教育・研究する長崎大学の10番目の学部として設置されました。国内では数少ないデータ科学（Data Science）と情報科学（Information Science）の両方が学べる学部で、情報抽出から意思決定までの一連の手順をAI、機械学習、数学、統計学などの「数理モデル」に基づき提案し、さらにその成果を、情報技術（IT）を用いてソフトウェア・ハードウェアといった「モノ」として社会に還元する一連の知識・技術を身につけます。

長崎大学「Planetary Health」の 実現に着手 ロゴマークも決定! 2020.4.10

長崎大学では、プラネタリーヘルスとは「地球の健康」を支え続けるために有効な「答え（解決策）」を探索し、私たち自身の意識変容、行動変容を促す取組みのことだと考えています。その探索は、地球上の生態系や社会のあるべき最適な姿を模索することであり、科学の視点と、市民・企業・行政などの多様な視点を重ねて行われることが必要不可欠です。

そのため本学では、特定の学部や専門性、学内外といった枠組みにとらわれることなく、地球と将来世代のためにさらに新しい「知」を創出し、提案することに挑戦していきます。

この取り組みに多くの方が賛同し行動していただくことを目的に、各種広報やPRに活用するためのロゴデザインを公募し、グラフィックデザイナーの筒井 亜優美 様のデザインに決定しました。

コンセプト：長崎大学の歴史と英知×新たな時代の挑戦⇒伝統を抱えながら現代的でスタイリッシュなデザイン



新型コロナウイルスの集団感染が発生したクルーズ船 「コスタ・アトランチカ号」が無事に出港 2020.4.20

2020年4月20日、長崎市に停泊していたクルーズ船「コスタ・アトランチカ号」にて新型コロナウイルス感染者が確認され、出港までの期間に合計149名の陽性者が出ました。しかし、多くの関係者の尽力により、1人も死者を出すことなく、終息を迎えられ、5月31日に長崎市を出港しました。今回のクルーズ船対応にあたっては、本学がキャンノンメディカルシステムズと共同開発した蛍光LAMP法を活用して、約620名の乗組員に対する検査を4日間実施したほか、本学が富士通と共同開発したアプリの活用により多数の乗組員の健康管理を行うことで、地域への感染拡大を防止することができました。

齋藤寛元長崎大学長 逝去 2019.8.14

元長崎大学長である齋藤寛長崎大学名誉教授が、2019年8月14日にご逝去されました。享年82歳でした。齋藤先生は、昭和58年12月に長崎大学医学部教授に就任され、平成10年10月から平成14年3月まで医学部長を、平成14年10月から平成20年10月まで第13代長崎大学長を務められました。長年にわたって医学教育に精進されとともに、研究面においては、主として衛生学及び環境保健分野で優れた業績を挙げられました。



キャリアセンター設置 2019.10.1

2019年10月1日に、全学部学生を対象とした総合的なキャリア支援のさらなる充実を目指す「キャリアセンター」を設置しました。このセンターでは、社会で幅広く適用する能力を育て、自己形成を促すための活動を行うことで、学生のキャリア選択の幅を広げ、障害にわたるキャリア形成を支援していきます。キャリアセンターは文教キャンパスの「学生会館1階」に開設しています。

新・長崎丸 竣工 2018.3.26

32年間活躍した三代目長崎丸に代わり、四代目長崎丸が建造されました。四代目には、最先端の設備が備わっており、三代目が東日本大震災の際に被災地に赴き支援活動を行った経験から、支援物資の輸送に配慮した設備も付加されています。コンセプトは、「東シナ海の水産・海洋科学をリードする国際洋上キャンパス」。水産学部生や他学部生のみならず、国内外の他大学の学生にも乗船してもらい、共に水産学、海洋学を探究する場を目指しています。



Research

長崎大学の研究活動

57年ぶりに 新種の アメンボ!?



大庭伸也 准教授

教育学部の大庭伸也准教授と大学院生・平石直樹さん、学外の共同研究者、松島良介さん、森井隆文さんらの研究グループは日本国内で新種のアメンボ「ケブカケシカタビロアメンボ」を発見しました。

カタビロアメンボの仲間は体長1～3mmほどの小さなアメンボで、これまで日本では19種の存在が知られていましたが、今回、2019年に愛知県で見つかった“不明種”について、形態とDNAの両面から検討した結果、新種であることが判明しました。

メスで体毛が目立つという形態的特徴から、この種をケブカケシカタビロアメンボ *Microvelia (Picaultia) pilosa* と命名しました。

ケブカケシカタビロアメンボの生態や今回見つかった愛知県以外での生息状況は不明で、今後、その分布域を解明するとともに、生態や生活史について明らかにする必要があります。



ケブカケシカタビロアメンボ

顎骨壊死 予防治療が 180度転換!?



五月女さき子 准教授

長崎大学歯学部口腔保健学科の五月女さき子准教授らの研究グループは、抜歯を避けることが一般的とされる顎骨壊死予防治療において、むしろ抜歯を避けることが逆に顎骨壊死発症率を有意に増加させることを明らかにしました。これは、これまで一般的に推奨された予防策を180度転換させるものです。骨転移したがん患者さんなどの治療薬の副作用として顎骨壊死が引き起こされることが多いことから、顎骨壊死を予防するために治療薬の投薬を止めるなど、これまでではがん治療と歯科治療の両立が困難でしたが、今回の研究データは、その両方の治療を並行して行える可能性を示しており、がん患者さんの健康増進やQOL（生活の質）の維持向上に果たす役割は大きいものと考えられます。

世界最速級で 飛翔する鳥類の 渡り経路を解明



山口典之 教授

水産・環境科学総合研究科の山口典之教授、酪農学園大学農食環境学群の森さやか准教授らの研究グループは、ほとんどの時間を空中で生活しているハリオアマツバメという渡り鳥が、北海道の繁殖地からオーストラリア東部までの長距離を渡っていることをつきとめ、その渡り経路をすべて追跡することに成功しました。本種の渡りは東アジアからオセアニアにかけて大きく「8の字」を描く、非常に特殊なものでした。この研究成果は、北海道の繁殖地とオーストラリアの越冬地を渡り経路を介してつなぎ、調査個体群の保全を総合的に進める最初のステップとして貢献します。



ハリオアマツバメ

マンボウは 防寒対策 できる?



中村乙水 助教

海洋未来イノベーション機構の中村乙水助教といおワールドかごしま水族館の共同研究によるマンボウが深海の低水温下で体温低下を抑える能力を持っているという内容の論文が公開されました。マンボウは体温調節を外部の温度環境に依存する外温性の魚類です。そのため、体温を好ましい範囲に保つために環境を選択する行動的体温調節を行います。以前の三陸沖のマンボウの研究では、速く体温を回復することができればすぐに餌のいる深場に戻ることができることから、マンボウは効率的に体を温めて体温回復にかかる時間を短縮していると考察していました。

今回、かごしま水族館で飼育されていたマンボウに深度や水温、体温が記録できる装置を装着して、鹿児島県の錦江湾に放流したところ、三陸沖のマンボウと比べて冷却時と加温時で体温の変わりやすさの差は小さく、加温時は三陸沖のマンボウと同等だったのに対し、冷却時では三陸沖のマンボウより冷えやすいという結果が得られました。この結果から、以前の考察は再考する必要があり、冷たい深場で体温が下がっていくのを抑制しているという解釈が妥当と推察されます。



マンボウ



カンパチ

世界初

重複感染による 肺炎の重症化の 可能性



木下貴明 助教

感染症共同研究拠点の木下貴明研究員、安田二郎教授らのグループと原爆後障害医療研究所の西 弘大助教、帯広畜産大学渡邊謙一助教による新型コロナウイルスに関する共同研究の成果論文が2021年10月28日にオンライン学術誌“Scientific Reports”に掲載されました。この論文では、新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスが重複感染すると肺炎が重症化・長期化する可能性を示しました。

新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスはそれぞれ単独の感染で肺炎を引き起こしますが、インフルエンザウイルスは感染4日後、新型コロナウイルスは感染6日後に最も重篤な肺炎像を示しました。一方、同時感染させた場合は、それぞれの単独感染時よりも肺炎が重症化し、更に回復も遅れることが明らかになりました。



研究風景

高級魚カンパチの 産卵場所を 特定



河邊 玲 教授

海洋イノベーション機構環東シナ海環境資源研究センターの河邊 玲センター長、中村乙水助教、水産・環境科学総合研究科の刀祢和樹さん（博士後期課程3年）、阪倉良孝教授、および北海道大学大学院水産科学研究所の米山和良准教授、東京海洋大学学術研究院の坂本崇教授、台湾行政院農業委員会水産試験所海洋漁業組の葉信明組長、同所東部海洋生物研究センターの江偉全研究員らの国際研究チームは、台湾南東部沿岸域でカンパチ成魚を捕獲して水深・水温・照度記録計を装着し放流するバイオリギングと呼ばれる最新の行動記録手法を用いることで、これまで未解明であったカンパチの回遊生態を調べました。

その結果、産卵期前の11月に放流されたカンパチの多くは産卵期が始まる1月までに台湾東部を岸沿いに台湾北部の東シナ海の大陸棚縁部まで移動していることがわかりました。

一方、産卵期を迎える1月以降になると、北部海域を離脱して今度は沖合の黒潮の中を南下することが明らかになりました。

INFORMATION

同窓会についての各種ご相談はこちらまで

校友会・ホームカミングデー

長崎大学広報戦略本部 校友会・基金室 〒852-8521 長崎市文教町1-14
TEL.095-819-2007 メール kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp

多文化社会学部

絢翔会
メール info@nagasakiuniversity-kenshokai.com
ホームページ
https://www.nagasakiuniversity-kenshokai.com

教育学部

一般社団法人 長崎大学玉園同窓会
〒850-0029 長崎市八百屋町36
長崎県教育会館内
TEL&FAX.095-824-5494

経済学部

公益社団法人 瓊林会
〒850-0003 長崎市片淵4丁目2-1
長崎大学経済学部内
TEL.095-821-4567
メール info@keirinkai.or.jp

医学部

長崎医学同窓会
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4
長崎大学医学部内
TEL&FAX.095-848-5484
メール ryojun_do@ml.nagasaki-u.ac.jp

歯学部

歯学部同窓会
〒852-8588 長崎市坂本1丁目7-1
長崎大学医歯薬学総合研究科 歯科補綴学内
TEL.095-819-7692
メール dousoukai@ml.nagasaki-u.ac.jp

薬学部

長薬同窓会
〒852-8521 長崎市文教町1-14
長崎大学薬学部柏葉会館内
TEL&FAX.095-844-6383
メール jimukyoku@choyaku.jp

工学部

工学部同窓会
〒852-8521 長崎市文教町1-14
長崎大学工学部工学科
TEL.095-819-2622
メール atada@nagasaki-u.ac.jp

環境科学部

緑友会
Facebook ページ
「長崎大学環境科学部同窓会 緑友会」
メール ryokuyu.info@gmail.com
ホームページ https://ryokuyuukai.localinfo.jp/

水産学部

鶴水会
〒852-8521 長崎市文教町1-14
長崎大学水産学部内
TEL.080-6471-5965
メール kakusui_kai_jimu@yahoo.co.jp

熱帯医学研究所

熱研同門会
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4
長崎大学熱帯医学研究所内
TEL.095-819-7869
メール domon@tm.nagasaki-u.ac.jp



ホームページ

卒業（修了）証明書等の発行を申し込みたい

申込方法については長崎大学HP内「各種証明書の発行申込について」をご覧ください。

校友会について

従来からの学部別同窓会とは別に、在学生、卒業生、教職員等が共に会員となつて情報を共有し、交流・連携を深めるとともに、大学の教育・研究や社会貢献等の取組みに対する理解や協力を促進するために、2018年10月に「長崎大学校友会」が発足しました。大学に関する情報発信や会員相互の交流事業の開催等、卒業後も長崎大学への愛着と関心を共有いただくべく、活動を広げて参ります。



ホームページ



メールマガジン
登録



ホームページ

西遊基金について

皆様からの温かいご支援をもとに、今後とも社会への貢献を目指してまいります。ぜひ、皆様のお力添えをお願い申し上げます。寄附金のお申し込みについては、HPでご確認ください。

皆様からいただいたご寄附をもとに実施した支援事業

生活困窮学生への支援事業

令和2年度に新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、アルバイト収入激減等で生活が困窮している学生581名に、1人当たり3万円／月を最長2カ月間支給しました。
令和3年度も引き続き、コロナ禍による影響で困窮している学生232名に、食費や教材費に充ててもらうため、1人当たり500円／日を3カ月間、生協クーポン券として支給しました。

留学生への支援事業

民間宿舎や本学の留学生宿舎への入居を希望する留学生に対し、保険料補助や賠償責任・火災保険料補助を行い、安心して生活できるように支援しています。留学生同士や留学生と日本人学生・関係団体等との交流により親睦を深め有意義な時間を過ごせるように、外国人留学生交流の集い、長崎平和学習、料理交流会等の開催及び支援を行っています。

プラネタリーヘルスに繋がる取組実現のための支援事業

令和3年10月、本学サークル「ながさき海援隊」が日本一海洋プラスチックゴミが流れ着く場所といわれている対馬にて、地元の清掃ボランティア団体「対馬CAPP」協力のもと、2泊3日の清掃活動を実施しました。

西遊基金
動画を作成しました。
是非ご覧ください



西遊基金動画

編集協力

◎近藤由茉（教育学部2年） ◎田中藍子（環境科学部1年） ◎永田拓巳（環境科学部1年）

編集・発行

長崎大学広報戦略本部 校友会・基金室
TEL.095-819-2007 FAX.095-819-2156
メール kouhou@ml.nagasaki-u.ac.jp